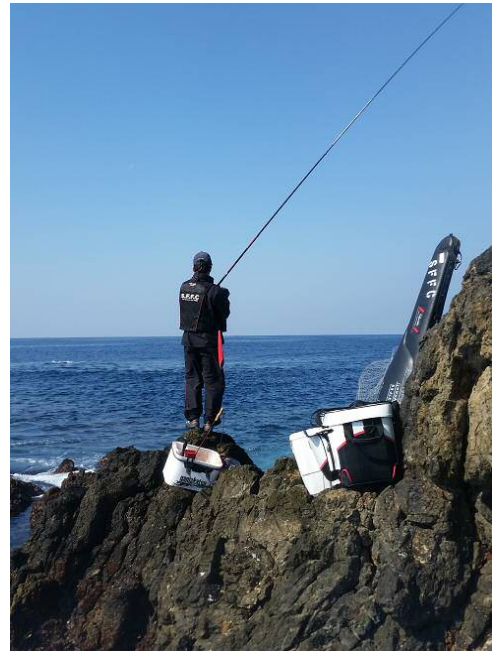


第4投目：連敗を脱出した日

2015年3月某日、奄美磯釣連盟の3月大会初日です。クラブメンバー数名で渡船に乗り込み西側海域へ釣行しました。3月大会は金～日曜日の3日間でクロの実寸を競う大会、できる限り早い段階でエントリーサイズの40cm以上を釣り上げ、余裕をもって展開していくのが理想です。当日は東のち南東の風で波は1m、空は快晴。私はもう一人のメンバーと二人で幸運にもA級磯であるM瀬にまだ薄暗い時間から渡れることになりました。

実のところ、私は1月から機会を伺ってはクロ狙いの釣行を繰り返していましたが、なんとこの日までクロ釣果8連敗中・・・クロを狙い始めてから初の経験でした。

『なんとしてもM瀬でこの連敗を止め、大会に入賞しなくては…』と朝マズメから力が入ります。



薄暗い中、まずは二人とも電気ウキで瀬際に狙いを絞ります。日中になるとやる気マンマンの餌取り達がまだ動き出してこないこの時間、仲間が2投連続で餌をとられた直後、私の仕掛けに魚がヒット、重量感と走り方で姿こそ見えませんがクロだと確信できます。8連敗をやっと脱出することになったそのクロは48cmと嬉しいサイズ。(結果、3月大会4位に入賞したクロでした)

その後、同じ場所で更なるサイズと枚数を二人で狙いますが、そう簡単にはいきません。M瀬が私達に『もっと苦労しなさい』と言っているかのようです。午前7時、別の場所を狙っていた私に41cmと44cmの2枚が連続ヒット、なかなかサイズアップはさせてもらえません。上げ潮が動いている間、撒き餌に寄ってきたアイゴ軍団が海面から背中を出し、その周りをムロアジが群れで餌を拾い、ハタタテダイが高速で泳ぎ回る海、一見すると良い状況が続いているように見えますが、その後は二人ともクロからのコンタクトは全く無いまま時間だけが過ぎていきます。

潮が止まり流れの角度が次第に変わり始めた正午過ぎ、ついにその時はやってきました。仲間が何気に岩の頂上から流れの方向を確認しに行った矢先、はるか30m沖に尾びれを海面から出し

餌を拾う良型の魚を発見! 『でかい! クロ!』その声にも慌てて駆けつけこの目で確認、すぐさま二人で仕掛けを投入…しかし、それ以降その姿が見える事は二度とありませんでした。他の魚と比べ一回り大きな青緑色の魚体、大きな尾びれ、反転する独特な動き…素晴らしい魚! 55cmはあったでしょうか。そしてそのクロが今シーズンの奄美のクロ釣り大会を最後まで面白いものにしてくれる魚だったと知るのはもう少し後になってからの事でした。

